

第6次能勢町総合計画(案)に対するパブリックコメント結果

■概要

期 間	令和4年3月15日（火曜）から4月15日（金曜）まで
対象者	以下の要件のいずれかに該当する個人・法人等を対象とします。 ・町内に住所を有する者 ・町内に事務所又は事業所を有する個人若しくは法人その他の団体 ・町内の事務所又は事業所に勤務する者 ・町内の学校等に通学する者 ・前各号に掲げる者のほか、本手続きに係る事案に利害関係を有する者
意見提出数	30件 （2人）

※ご提出いただいたご意見は要約している場合があります。

■提出されたご意見及び回答案(パブコメ以外含む)

番号	頁	見出し等	コメント	町の考え方・対応	修正の有・無	備考
1	その他		必要以上にカタカナ語が使われていると感じる。ビジネス業界や行政担当者、学識者間では既に浸透している言葉かもしれないが、能勢町内の一般の人々が文章を読んでいるときに調べなくては意味が分からないようなコトバに関してはページ内に注釈を打つか、日本語で表記したほうが良いのではないかと。下に、当計画案に出てきているカタカナ語で比較的目的新しい部類に入ると思われるものを抜粋した。これらの言葉について、調べずに意味を正確に把握している人がどれぐらいいるのか、カタカナ語でないと表現できないのか、検証してほしい。 シビックプライド、ワーケーション、ソーシャルキャピタル、グリーンツーリズム、グリーンレジリエンス、バックアップ、アップデート、ローカルイノベーション、プラットフォーム、ステークホルダー、アントプレナーシップ、リデザイン、エネルギーマネジメント、グリーンインフラ、グリーン成長、アクター、ウェルビーイング、シティプロモーション、フレイル、リテラシー、ディバイド、オフセット、インフラストラクチャー、パンデミック、DX、ビッグデータ、ウェブアクセシビリティ	カタカナ表記の箇所について、それぞれ下記の内容に表現を改めるとともに、その他の語彙については必要に応じて用語説明のページを作成します。 ①シビックプライド【P5-1・2ほか】 ➡持続可能な社会の創り手としての意識 ②ワーケーション【P3左側、P5-33】 ➡「ふるさとや農山村地域などで余暇を楽しみながら仕事を行うワーケーションや」として前文に用語の説明を加えます。なお、【P5-33】についてはすでに同様の説明が記載されているため原案どおりとします。 ③ソーシャルキャピタル【P3-1・9】 ➡ソーシャルキャピタル（人間関係資本） ※説明併記 ④グリーンツーリズム【P13、P3-3ほか】 ➡農山村の自然や文化、人との交流 ⑤グリーンレジリエンス【P3-4・11ほか】 ➡自然資本を賢く生かす ⑥バックアップ【P3-4、P5-46】 ➡支援 ⑦アップデート【P3-6】 ➡縁をつなぐ	有	パブコメ

1			〃	⑧ローカルイノベーション【P3-6】 ➡地域発のサービスやユニークな取り組み ⑨プラットフォーム【P3-7、P5-31ほか】 ➡「場」、または「基盤」 ⑩ステークホルダー【P3-8、P5-6ほか】 ➡関係者・協力者。【P1-2】は説明を併記していることから原案どおりとします。 ⑪アントレプレナーシップ【P3-8、P5-2】 ➡自ら行動し新しい価値を生み出していこうとする挑戦心 ⑫リデザイン【P3-10、第5章ほか】 ➡活性化 ⑬エネルギーマネジメント【P3-3・11】 ➡エネルギーを大量に消費するのではなく適切な量が無駄なく使う（仕組みづくり） ⑭グリーンインフラ【P3-11】 ➡グリーンインフラ（自然環境が有する多面的機能を防災・減災などに生かしていく力） ※説明併記 ⑮グリーン成長【P3-11、P5-34】 ➡再生可能エネルギーへの転換をまちの活力に生かす	有	パブコメ
---	--	--	---	--	---	------

1	その他	〃	⑩アクター【P3-12】 ➡主体 ⑪ウェルビーイング【P3-9、第5章ほか】 ➡「健康で幸せな暮らし（ウェルビーイング）」として日本語併記していることから原案どおりとします。 ⑫シティプロモーション【P5-29】 ➡『シティプロモーションとは「地域の魅力を内外に発信し、その地域へヒト・モノ・カネを呼び込み、地域経済を活性化させる活動」です。』として本文中に説明があることから原案どおりとします。 ⑬フレイル【P5、P5-22】 ➡フレイル（健康な状態と要介護状態の中間の段階） ※説明併記 ⑭リテラシー【P5-24、P5-48】 ➡知識や教養 ⑮デジタル・ディバイド【P5-24、P5-47】 ➡インターネットやコンピューターを使える人と使えない人との間に生じる格差	有	パプコメ
---	-----	---	--	---	------

1	その他		〃	②オフセット【P5-44】 ➡カーボン・オフセット（自らの温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量で埋め合わせすること） ※説明併記 ③インフラストラクチャー【P5-45】 ➡「災害に対するインフラストラクチャーの構築（道路や河川、山林などの土木事業）」と日本語を併記していることから原案どおりとします。 ④パンデミック【P5-46】 ➡感染症の世界的な流行 ⑤DX【P5-47・48】 ➡デジタル技術の活用。ただし、「自治体 DX 推進手順書」は個別の名称のため原案どおりとし、別ページに注釈を追加します。 ⑥ビッグデータ ➡【P5-47】様々なデータ、【P5-48】「AIによる様々なデータの収集・分析」 ⑦ウェブアクセシビリティ【P5-48】 ➡ホームページで提供されている情報や機能に支障なくアクセスし、利用できる環境	有	パブコメ
2	その他		カタカナ用語が多すぎる。別表対応も分かりづらいのではないか。	上記1. のとおり	有	審議会
3	その他		住民向けに配布される概要版には、計画の細部まで記載されない。このため、基本構想の中で取組の方向性が分かるようある程度の書き込みが必要ではないか。	概要版については改めて共有させていただきたいと存じますが、基本構想に加えるべき具体的な内容がありましたら審議会の検討内容を踏まえ対応いたします。		審議会
4	その他		「子ども」の表記が統一されていない。	表記については「子ども」に統一しています。	無	審議会
5	その他		少子・高齢化でくるのではなく、少子化と高齢化と別々の問題と考えるべきである。	「少子化・高齢化」に統一しています。	無	審議会
6	その他	基本構想	審議会資料で示されていた、将来イメージの作文（未来の小学生女の子が語る能勢の物語）は必要か。	価値観を押し付ける印象を与える恐れがあることから、パブコメ資料からは削除しています。	無	審議会

7	表紙	図		「～里山未来都市～」の位置を大阪府にかからない下段に変更。	有	事務局
8	P1	学生と町民が つながる取り 組み	右列 (略)また、能勢分校と連携協働し、(略)を進めています。	(略)また、 能勢町では 能勢分校と連携協働し、(略)を進めています。	有	事務局
9	P2上段	能勢分校はユ ネスコスクール に認定されて います。	(略)ユネスコスクールに認定されました。平成 22(2010)年	(略)ユネスコスクールに認定されました。平成 22(2010)年 加盟。	有	事務局
10	P3	サブタイトル	サブタイトルが分かりにくい。 「町の生活が子どもの人間形成の原点」 本文よりピックアップしているようだが、それならば最初の行の「町の豊かな自然環境や顔の見えるコミュニティは子育ての魅力」の方がサブタイトルにふさわしいのでは？ 【提案】「魅力ある子育て環境、豊かな自然とコミュニティ」 「高まる町での生活へのニーズ」 能勢町での生活が求められ、移住者が増えていますということなのか？ 【提案】「町での新しい暮らし方」「求められる能勢町での新しい暮らし」「町に移り住む人々」 「受け皿づくりを丁寧に」 「丁寧に」することは重要だが、目的は「地域で受け入れる体制を構築すること」なのでは？「丁寧に」が太字でサブタイトルなのは違和感がある。 【提案】「地域で取り組む受け皿づくり」	ご意見のとおり修正します。 町の生活が子どもの人間形成の原点 ➡魅力ある子育て環境、豊かな自然とコミュニティ 高まる町での生活へのニーズ ➡町での新しい暮らし方 受け皿づくりを丁寧に ➡地域で取り組む受け皿づくり	有	パブコメ

11	P3・P7		昨今の移住者や、新たに農業に取り組む人は本格的な専業・兼業農家以外に半農半Xのように、仕事のベースを別にもちつつ、「業」ではない自給農を求めている人が多い。既にそのような暮らしをしている町民も多く、今後増えていくと考えられる。「農ある暮らし」という意味の文言を加え、町として推進するという内容を加えられないか？（「副業」「多様な担い手」という言葉とはまた違う意味合い）	ご意見を踏まえ、P3に下記内容を追加します。 受け皿づくりを丁寧に 大切なふるさとを【中略】施策がますます重要になっています。 地域企業への就業や起業、子育て、農のある暮らしなどを希望する方の移住の実現に向けて、今後、更に増加が懸念される空き家等の未利用資源を有効活用していくことも大切です。	有	パブコメ
12	P3右列		（原案）子育てや地方の暮らしの魅力を発信するとともに、地域の皆さんとともに「地域のありたい姿」を共に考え、移住や町と深い関りを持ちたい方への受け皿づくりを丁寧に進めていく必要があります。 「子育てや地方の暮らしの魅力」 町民に向けてなので「地方の暮らし」より「田舎暮らし」の方が適切では？	ご意見を踏まえ下記のとおり修正します。 子育てや 農山村の暮らし の魅力	有	パブコメ
13	P3	受け皿づくりを丁寧に	大切なふるさとを(略)町と深い関りを(略)、移住や町と深い関りを持ちたい方への(略)	大切なふるさとを(略)町と深い関 わり を(略)、移住や町と深い関 わり を持ちたい方への(略)	有	事務局
14	P9	タイトル	「多様な働く場所がある町」：日本語として違和感がある	ご意見のとおり修正します。 働く場所が多様にある町	有	パブコメ
15	P9	サブタイトル	働き場所への内外からのニーズ：日本語として違和感がある。 【提案】「町内外から求められる働く場所」「町内外からの働く場所へのニーズ」	ご意見のとおり修正します。 町内外から求められる働く場所	有	パブコメ
16	P9	2行目、12行目	「働き場所」：誤植？故意であったとしても誤植と思われる表現である。	ご意見を踏まえ、文言を修正します。 働き場所⇒就労の場	有	パブコメ
17	P9	観光資源を生かした賑わいの創造	豊かな里山環境を生かした観光資源では、多くのファンや観光客で賑わっています。(略)	本町には豊かな里山環境を生かした個性ある観光資源がたくさんあり、多くのファンや観光客で賑わっています。(略)	有	事務局

18	P11左側	公共交通を取り巻く厳しい環境	「送迎など」「ニーズなど」「縮小など」：「など」が多い。どれか省けないか。	ご意見を踏まえ、記載内容を下記のとおり修正します。 町外に通学する高校生も、下校が遅いとバスの最終便に間に合わず、土曜日や日曜日の通学にも送迎(削除)が必要になっています。また、若者世代だけではなく、高齢者等の外出支援に対するニーズ(削除)も高まっています。 しかし、運転手不足や需要の縮小などにより地域における公共交通を取り巻く環境は、更に厳しくなっています。	有	パブコメ
19	P13	全体	バイオマスに関して記述がない。森林資源を活用するにあたって視野に入れておくべきことではないか。それとも、検討から既に外れたのか。	N028のとおりP3-3に加筆します。なお、「20森林資源の保全と活用」(P5-42)においても、森林資源のエネルギー利用について可能性を検討する旨を示しています。	有	パブコメ
20	P14	…ひとこと…	SDGs、持続可能性のある仕事になって、日本が世界に誇れる社会を作ることになる。地域のいろいろな考え方が土台となる。人類が生きてきた過程をしっかりと見極めて、個々に挑むべきだと思う	※趣旨が伝わりづらい文章になっているので、削除。	有	事務局
21	P1-3	3 計画の構成	第6次能勢町総合計画は、基本構想、基本計画・分野別計画、総合戦略（重点化目標）で構成されます。 →第4章は基本計画の体系のうち、P4-1ページで、「本基本計画は、分野別計画及び総合戦略（重点化目標）で構成されます。」と記載があり、本ページの内容と齟齬がある。	第4章(P4-1)に説明内容を統一。	有	事務局
22	P2-13	3 能勢町の住民意向	【調査方法】 (一部、能勢高校に配布・回収)	【調査方法】 (一部、能勢分校に配布・回収)	有	事務局
23	P2-13	〃	【属性分布】16～34歳13.5%、35～54 歳17.7%、55～74 歳 47.5%、75 歳以上 21.3%、	【属性分布】16～34歳13.5%、35～54 歳 17.7%、55～74 歳 47.5%、75 歳以上 21.3% (読点削除)	有	事務局

24	P3-1	将来目標	(原案)本計画では、人口を増やすこと以上に、地域内外の「縁」を創造し、増やしていくことで、つながりや支えあい広がりが、温かで賑わいがある開かれたまちを目指します。 人口を増やすことは簡単ではないが、人口維持もしくは人口減少を少しでも食い止めることへの取り組みは必要であるので、ここで「以上に」と優先順位をつけるべきではないのでは。 【提案】「人口を増やすこととともに」のような表現にする、もしくはこの文言を省く。	ご意見を踏まえ、記載内容を下記のとおり修正します。 本計画では、(削除)地域内外の「縁」を創造し、増やしていくことで、つながりや支えあい広がりが、温かで賑わいがある開かれたまちを目指します。	有	パブコメ
25	P3-1	図		「～里山未来都市～」の位置を大阪府にかからない下段に変更。	有	事務局
26	P3-1	〃	平成 28 (2016) 年に発表された「生物多様性に優れた自治体ランキング」で全国 1 位となりました。 ➡都市近郊の665自治体を対象、都市の生物多様性指標を参考にしているなどの説明が必要ではないか。	平成 28 (2016) 年に全国665自治体を対象に評価された「生物多様性に優れた自治体ランキング(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)」において、本町は生態系の豊かさと便益を評価する指標群で全国 1 位となりました。	有	審議会
27	P3-2	里山について	「里山」は、エネルギー革命以前の地産地消を賄っていた時代の田畑や民家を含む里地やそれに続く山野・水辺環境であり、その何百年とかけて築き上げられた人工的な自然環境には日本独特の生態系が確立されていた。グローバル化によるエネルギー転換で利用されない家畜や薪炭林、外来生物の出現や在来種の絶滅により本来の生態系が崩れてきた。そのように人間の営みの変化により現在では、狭義の意味での里山は現在の日本には存在しない。人間活動が地球環境の悪化を招いているのと同じく、現在の里山的環境も悪化の一途を辿っていることを決して忘れてはならない。 ここでの「里山」は里山的環境であり、農村的文化などを含む広義の意味での里山である。ノスタルジックな観光的・自然回帰的要素もある。	同ページに里山の概念について説明しておりますので原案といたします。 (原案抜粋) 『農村的な文脈をもちつつ、地域環境的な概念として「里山」が広くつかわれるようになりました』	無	パブコメ

28	P3-3	地方創生の原動力としてSDGsを推進(2-1経済)	(原案)地域内の再生可能エネルギー資源が最大限活用されるとともに、エネルギーを無駄なく使うエネルギーマネジメントが浸透しています。 ⇒エネルギーマネジメントは分かりづらい。能勢町では、以前に低炭素な地域づくりに向けた調査の中でバイオマス発電について検討されている。事業化に向けてモデル形成事業を進めているので、目標に木質バイオマス発電を目指す書ききってはどうか。	記載内容を修正します。 ⇒木質バイオマスなどの地域内の再生可能エネルギー資源が最大限活用されるとともに、エネルギーを大量に消費するのではなく適切な量を無駄なく使うまちづくりが実現しています。	有	審議会
29	P3-3	〃	農業の分野がネガティブな印象を受ける。他の分野は可能性がなくてもポジティブに表現されている。30件以上の新規就農者が定住した自治体は少ない。また、都市近郊農業の可能性を記載すべきではないか(社会や環境の取組とも関連する)。	記載内容を追加します。 ⇒都市近郊の強みを生かした農業が展開され、新規就農者の受け入れが更に進んでいます。	有	審議会
30	P3-3	〃	近隣の鉄道駅からの市街地へのアクセスや観光拠点をつなぐ交通手段が多様化しており、地域外からの町内へのアクセスが容易になっています。 ⇒「アクセスが容易になっている」まで書ききれるのか。現状とはかなり乖離している。	記載内容を修正します。 ⇒近隣の鉄道駅からの市街地へのアクセスや観光拠点をつなぐ交通手段が多様化しており、地域外からの町内へアクセスする選択肢が増えています。	有	審議会
31	P3-4	2-3 環境	住民や民間企業も巻き込んだ、地域エネルギー会社の取り組み等によって、エネルギー利用の脱炭素化が大幅に進展しています。	住民や民間企業も巻き込んだ(削除)エネルギー利用の脱炭素化が大幅に進展しています。	有	事務局
32	P3-5	将来目標実現のための基本方針	関係人口は固い。「能勢ファン」という表現でも良いのではないかと。また、農的な暮らしを求める方々を迎え入れる将来像を書き込んでほしい。	別紙1のとおり	有	審議会
33	P3-6	○「里山の学び」をライフステージに合わせて多様に提供	・本町への移住を希望するものの、都市部に仕事や生活の基盤を持つため、すぐに移住することが困難であることから、現時点では移住希望先の地域と触れ合う機会を経ながら将来的に移住するなど、(略)段階(ステップ)を経ることが一般的です。	・本町への移住を希望するものの、都市部に仕事や生活の基盤を持つため、すぐに移住することが困難な場合もあります。最初は移住希望先の地域と触れ合う機会を経ながら将来的に移住するなど、(略)段階(ステップ)を経ることが想定されます。	有	事務局

34	P3-6 P3-7	○「里山の学び」をライフステージに合わせて多様に提供	・更に、若い世代、特に高校生以下の生徒等が、（略）こうした取り組みを支援することにより、若い世代の本町への想いの形成に寄与することを期待します。	・更に、若い世代、特に高校生以下の生徒等が、（略）こうした取り組みを支援することにより、 若い世代が本町への愛着や誇りを形成する機会を創出していきます。	有	事務局
35	P3-7	「関係人口」と「能勢」を継続的につなぐ体制づくり	*SDGsの観点も踏まえて加筆予定	誤植のため削除	有	事務局
36	P4-4	SDGsとの対応	施策の大綱にSDGsの17項目を当てはめる施策が必要なのでは？ ゼロカーボンタウンを目指している本町に「13気候変動に具体的な対策を」の項目に●が少なすぎる。気候危機は行き過ぎた資本主義や経済発展がもたらした結果であり、災害や環境汚染など生命に関わる重要な項目である。特にすべての施策の中で実行に移していかなければならないはずだ。	分野別計画において具体的な取組を掲げており、関連諸施策と連携を図りながらゼロカーボンタウンの実現に向けて高いレベルで挑戦することとしています。 なお、国土の大半を支える農山村地域は人間生活に欠かすことのできない多面的な機能を有しています。農山村地域が持続していくことは、SDGs目標のすべてに貢献するものであると考えています。 そのうえで、本ページではSDGsのゴール達成に直接的につながる施策を示しており、対応する施策テーマの多寡により、施策実行の有無を判断するものではございませんので、原案どおりとします。	無	パブコメ
37	P4-4	SDGsとの対応	「14海の豊かさを守ろう」にはチェックがないが、私たちのゴミは、燃やされ大阪湾に埋め立てられている。生活排水や下水も河川を通して海に流れていく。生活と繋がっているはずだ。	N036のとおり、本ページではSDGsのゴール達成に直接的につながる施策を示していますので、原案どおりとします。	無	パブコメ
38	P4-4	SDGsとの対応	「健康で幸せな暮らし」の中に「生活インフラの充実」がないのはなぜか？ 安定した上下水道・排水・電気・電波・電話・ゴミ収集などは当たり前のようにあるが、これが止まってしまつては、健康で衛生的な生活自体がなりたたない。インフラを健全に維持していくための問題も多々あるはずだ。	N036のとおり、本ページではSDGsのゴール達成に直接的につながる施策を示しています。 なお、上下水道等に関する内容は、施策テーマ「20時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用」の項目に掲げており、当該施策の直接的なゴールとしては「6安全な水とトイレを世界中に」、「11住み続けられるまちづくりを」を目標に設定しています。	無	パブコメ
39	P5-1	第5章全体	「他施策との主な連携」	「 連携すべき主な分野別計画 」	有	事務局

40	P5-1～P5-4	施策の方向性	ここでの「教育」とは、6歳から18歳まで教育だけなので すか？幼児教育・社会教育・生涯教育が含まれないの か。 6歳未満は、情緒や感性など人間として基礎を築く大切な 時期です。幼児教育についてもしっかりと明言してもら いたい。ノーベル経済学を受賞したジェームズ・ヘック マン米シカゴ大学経済学部特別教授は、5歳までの教育 が、人の一生を左右すると明言している。幼年期に培っ た潜在能力は、人生の様々な局面で自ら行動を起こして いく時に必要な様々な能力をされると言われている。この 人間形成の大切な時期を「教育」の中で外してはならな いのではないか。 社会教育・生涯教育も人口割合からしてもとても大切な ものではないか？ 大人になったら、学習することが無くなるわけではあり ません。実際、里山義塾や人権教育講演会、文化財も図 書館もあります。スマホ教室など新たな学習もこれから は大人に必要な。身近な生活の中でも「知識」として 知ってもらいたい事もある。SDG s やエネルギー政策など 町を挙げて取り組もうとしている事に、もっと興味を 持ってもらえるような環境を作らないといけないはず だ。これは教育以前の知識の問題かもしれないが、町に 興味を持ってもらうことを促進する働きかけが必要かと思 う。 「教育」とは、学びたいという気持ちが基本だが、その 気持ちを起こさせるきっかけや、その場を提供する事が 町の役割ではないのか。	義務教育学校に関する内容が中心になります。 社会教育・生涯教育については、施策テーマ「7社会全体 で子ども・若者の成長を支える環境づくり」及び「12生 涯活躍できる社会の実現」に示しています。 なお、幼児教育に関する記述については、下記の内容を 追加します。 高校を含めた一貫教育における体系的な教育プログラムの 推進 ・認定こども園・保育所・義務教育学校の連携を図り、子 どもたちの学びの連続性を確保するとともに、関係機関 と協力のもと質の高い幼児教育・保育の提供体制の充実 に努めます。	有	パブコメ
41	P5-5・6	全体	ここでも、子どもや若者が主語になっているが、それを 支える大人への発信が弱いのではないか？ 今現在、里山留学制度の協力者が少ないのもその表れで はなか。「サイクル」という言葉のように、循環させて いくためには、相互理解が必要だ。	同ページにある「他施策との主な連携」において「7. 社 会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり」を掲 げており、関連施策と連携を図りながら施策を推進する 予定です。 ご意見については施策推進の参考にさせていただきます。	無	パブコメ

42	P5-7	現状と将来予測から見た課題	大阪市街へ1時間程度で行けるため、週末だけ移住のよ うな選択肢を選べたり、市内での仕事を手放さずに田舎 暮らしができる点が、他の地方市町村と差別化できる本 町の強みである。その点を加筆できないか。	ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 現状と将来予測から見た課題 ■移住に関する情報発信や〈中略〉発信が不足していま す。一方で、本町は、都市近郊に立地しており大阪や京 都市内へ自家用車で約1時間の距離にあります。二地域居 住として本町に都市の住居に加えた生活拠点を持っ たり、市内での仕事を手放さずに農山村の暮らしを実現 したりすることができます。こうした町の強みを適切に発 信していくことが重要です。	有	パブコメ
43	P5-7 P5-8	住まいや新生活の支援	農的な暮らしや半農半X的な用語で定住者を募る。また、 「地方暮らし」との表現もあるが、農的な暮らしを前提と した移住者を移住者を受け入れるモデル地区などを設定 してはどうか。市街化調整区域での地区計画を目指す、 若しくは地域の取組を支援するなど。	現状と将来予測から見た課題を、以下の内容に修正しま す。 ➡一方、平成28（2016）年の調査では、町内には194 件 の空き家等があり、人口減少が進む中で、今後、その数 は更に増加することが懸念されます。総合計画審議会 では、空き家等の流通を促し、所有者が分からなくなる事 態などを未然に防ぐために、空き家等の管理・利用を総 合的に担う主体や制度の必要性について意見が出されま した。本町では空き家等の所有者や利用希望者に対して 相談会を実施していますが、引き続き、空き家の未然予 防や活用を促進し、生活環境の保全や地域活力の向上に つなげていく必要があります。 施策の方向性(住まいや新生活の支援)について以下のと おり記載内容を全文修正します。 ➡地域企業への就業や起業、子育て、農のある暮らしな どを希望する方の移住の実現に向けて、空き家所有者へ の働きかけを行うなど空き家バンク制度の充実を図り、 住環境の確保に取り組みます。 ➡関連する主な個別計画に「能勢町市街化調整区域にお ける地区計画のガイドライン」を追加します。 関連項目：N046	有	審議会
44	P5-9	施策が目指す姿	主語を追加	能勢の歴史や伝統、文化を通じて地域に対する愛着や豊 かな心が育まれ、地域文化の保存・継承や活用により地 域の資源として(略)	有	事務局

45	P5-9	現状と将来予測から見た課題	文言追加	■平成29（2017）年には（略）隣接する能勢町けやき資料館を指定管理にて運営し、 地域振興 や地域資源の保全に努めています。	有	事務局
46	P5-10	施策の方向性ほか	※新規	地区計画活用によるモデル的地域づくり（重点化） ・自然環境や集落景観、歴史資源を生かした魅力ある地域づくりに向けて、住民発意による土地利用のルールづくりや地区計画活用に向けた取り組みを支援します。 なお、関連する主な個別計画に「能勢町市街化調整区域における地区計画のガイドライン」を追加します。	有	審議会
47	P5-11	現状と将来予測から見た課題	町内の道幅は狭いことが多く、思いっきり走り回れる広場もない。予測不可能な行動をとるかもしれない。子どもや障がい者が安心して行動でき、憩いの場所となる様な場所がない。	5-12ページに施策の方向性として「子供たちの豊かな遊び・学びの実現」を掲げていますので、原案どおりとします。	無	パブコメ
48	P5-12	施策の方向性	今後、ささゆり学園校庭や旧小中学校の校庭、名月グラウンドの開放など設けていく事も視野に入れてはどうか。	ご意見の内容について、現時点では想定しておりませんが、今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無	パブコメ
49	P5-13	現状と将来予測から見た課題	■一人ひとりの子ども・若者が持つ能力や生まれ育った環境は異なっても、自尊感情や自己肯定感を育み、社会的に自立した個人として健やかに成長し、明るい未来を切り拓くことが求められています。(略)	■一人ひとりの子ども・若者が持つ能力や生まれ育った環境は異なっても、自尊感情や自己肯定感を育み、社会的に自立した個人として健やかに成長し、明るい未来を切り拓く 力を育成していく ことが求められています。(略)	有	事務局
50	P5-13	現状と将来予測から見た課題	■読書活動は、言葉を学び（略）不読率が高くなる生徒の読書の量や質を向上することが課題です。	■読書活動は、言葉を学び（略）不読率が高くなる 児童生徒 の読書の量や質を向上することが課題です。	有	事務局

51	P5-16	グラフ	特定健診受診率	・グラフタイトル 特定健診受診率（市町村国保）の推移 ・グラフ横軸 R1、R2 ➡ H30、H31 ・国 H30 37.9%、H31 38.0% ・府 H30 31.0% H31 30.5% ・町 H30 38.7%、H31 37.1%	有	事務局
52	P5-17	現状と将来予測から見た課題	■ 重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで	■ 重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで	有	事務局
53	P5-21	現状と将来予測から見た課題	いきいき百歳体操への男性の参加が少ない。（統計を取ったわけではないが、聞いた地区では男性がほとんどいない。）	ご意見を踏まえ、原案を下記のとおり修正します。 性別を問わず参加いただけるよう施策の推進に努めます。 【現状と将来予測から見た課題】 ■ 健康長寿には（中略）、参加者数は約 500 人で、高齢者人口の約 13%（全国目標：8%）と高い水準になっています。引き続き、参加者の裾野拡大に向けた対策が求められています。また大阪大学との<以降略>	有	パブコメ
54	P5-25	現状と将来予測から見た課題	外国人住民の増加が予測される。民生委員などを通じて識字教室の積極的な活用を促すべき。	施策の方向性として「人権が守られる環境づくり」を掲げていますので、ご意見については今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無	パブコメ
55	P5-25	現状と将来予測から見た課題	多様な背景を持った人の中に「過敏症疾患患者」も入れてほしい。「多様な背景を持った人の人権」を「多様な背景を持った個人の人権」に修正すべき。	原案には「多様な背景を持った全ての人」と記載していますので原案どおりとします。なお、表現については、「多様な背景を持った個人の人権」に改めます。	有	パブコメ
56	P5-25	現状と将来予測から見た課題	労使関係・出生などの社会的人間関係のバリアフリーもどこかに、入れてほしい。	施策の方向性として「人権が守られる環境づくり」を掲げていますので、ご意見については今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無	パブコメ
57	P5-25	グラフ	付属機関における女性の参画率	付属機関における女性の参画率	有	事務局
58	P5-26	人権が守られる環境づくり	個人情報の保護に対する項目も入れるべき。	施策の方向性として「人権が守られる環境づくり」を掲げていますので、原案どおりとします。	無	パブコメ
59	P5-27	現状と将来予測から見た課題	■ 地域で支援を必要とする人に対し、（略）CSW（コミュニティソーシャルワーク）を配置	■ 地域で支援を必要とする人に対し、（略）CSW（コミュニティソーシャルワーカー）を配置	有	事務局

60	P5-29	施策が目指す姿	「能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンがたくさんいる」を「能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンが増え、関係人口が増加する」に修正すべき。	ご意見のとおり修正します。 能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンがたくさんいる ➡能勢の魅力が広まり、全国に能勢のファンが増え、関係人口が増加する	有	パブコメ
61	P5-30	地域の魅力向上	能勢町の魅力をあらゆる媒体やコンテンツを活用して発信し、知名度向上や移住の動機付けにつながるよう、事業者等の育成、支援や積極的・効果的なプロモーションを展開します。	(略) 展開します。また、企業版ふるさと納税の仕組みを活用し、地方創生の取り組みを推進します。	有	事務局
62	P5-31	現状と将来予測から見た課題	担い手の働きやすさや効率化、生産性向上が主目的になり、生態系の攪乱や自然破壊、景観損失にならないようにしなければいけない。	ご意見については、今後の施策推進の参考にさせていただきます。	無	パブコメ
63	P5-31 P5-32	全体	「銀寄バンク」にとどまらず、行政主導の農地・山林・空き家のバンク構想を書き込んではどうか。	上記43. のとおり	有	審議会
64	P5-33	現状と将来予測から見た課題	「里山」はエネルギー革命以前の地産地消を賄っていた時代の田畑や民家を含む里地やそれに続く山野・水辺環境であり、その人工的な自然環境には日本独特の生態系が確立されていた。方や、産業農業や農地の企業用地転用はその「里山」を破壊するものである。「魅力ある里山資源を次世代につなげていく」のに、「農業の産業化・土地利用の高度化」は相反するのではないか？	里山や農山村資源を担う人材をつなぎ、そこで暮らし続けることができる環境整備に向けて、就業機会の拡大を図ることが必要です。そのため、「里山資源の保全」と「多様な就労機会の確保」については相反する取組ではなく、相乗効果を生み出すべく施策の推進を図ることが重要であると考えておりますので、原案どおりとします。	無	パブコメ
65	P5-33	現状と将来予測から見た課題	単に「就労の場」と書いてあるが、就労の内容はどんなものなのか。第一次産業・第二次産業・第三次産業、社会にとって必要不可欠な職種から一部の人のみの需要を満たすものもある。近年郊外で建設が進んでいる物流センターは、町から車で最短15分の場所にあり現在も人を募集している。もっと大きな物流センターも数年後には出来る予定である。町内の物流センターでも人手不足である。大切な能勢町の魅力である自然を潰してまでも必要な就労とはなになのか？もっと調査議論を尽くすべきである。 この章では地域経済の章である。「魅力ある里山資源を次世代につなげていくためには、」よりも「税収を上げ健全な町政を次世代につなげていくには、」ではないのか。	就業機会の確保に向けては農業以外の選択肢も重要であると考えています（P5-39, 40参照）。 なお、本ページに記載していますが、農家へのアンケート調査においては、76%の方が農業系以外の企業誘致が必要と回答されています。 なお、本町の土地利用については、町域の約36%が農業振興地域であり、約99%は市街化調整区域です。人口減少や農家の高齢化等が進む中で、持続可能で地域活力を支える土地利用のあり方を考えていくことが必要であると認識しています。 引き続き、環境・経済・社会の統合的向上を目指して、地域の魅力を引き出す秩序ある土地利用を推進します。	無	パブコメ

66	P5-34	地域経済の好循環創出	「里山資源の有効活用」が抽象的である。以前の薪炭林ではなく能勢町だけの新たなオンリーワンの有効活用を目指すなどの表記に変えてはどうか。	記載内容を修正します。 ➡豊かな里山資源を持続的に活用していくためには、経済的な相乗効果を生み出していくことが必要であり、 従来の薪炭林として利用だけではなく、モノ消費・コト消費に向けて能勢町ならではの斬新な切り口やそれを支えるストーリーを見える化していくことが重要です。 そのための仕組みづくりに向けて関係団体との連携を推進します。	有	審議会
67	P5-34	魅力ある就労環境の創出	※新規 NO. 43. 46を踏まえ追加	特定地域づくり事業組合制度の研究など移住定住の促進や地域産業の担い手確保に向けて、働く場の創出や働きやすい環境づくりに取り組みます。	有	事務局
68	P5-34	魅力ある就労環境の創出	(原案) ・働き方改革が促進され、働く人の個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できるよう、地方創生に資するテレワークなどの環境の整備に努めます。 ・「住む」だけではなく「働く」という視点での豊かな自然の中での里山オフィスのプログラムの検討を行い、アフターコロナの時代における多様な働き方に対応する「働く場づくり」を行います。 具体的にどうということかこの文面では分からない。前者は能勢町としてテレワークできる仕事を創出するということか、役場の仕事をテレワークにするという意味か。後者は里山オフィスを構える企業を誘致するということか。	ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。 ・ 農山村の魅力や都市近郊の強みを生かして、地方創生に資するテレワークの推進を図るなど多様な働き方に対応する「働く場づくり」を行います。	有	パブコメ
69	P5-40	活力ある暮らしを支える土地利用	※新規NO43. 46. 67を踏まえ追加	・ 市街化調整区域における開発許可等の弾力的な運用により、定住促進や起業など地域の活力向上に資する土地利用を推進します。	有	事務局
70	P5-42	森林資源を保全・育成するための対策の推進	公共施設における活用を追加。	木の駅プロジェクト等を通じて、山林所有者が主体となって山林の手入れを進めるための仕組みづくりを進めます。また、 公共施設等における地域材利用の促進 や森林資源のエネルギー利用について可能性を検討します。	有	事務局
71	P5-45	施策が目指す姿	文言削除	(削除) 地域の防災や減災に関する人と組織の仕組みが構築されている	有	事務局

72	P6-2	重点化目標	重点目標の1・2を見て、がっかりした。結局人口問題？町のポリシーが感じられない。町の魅力が感じられない。町の特徴が感じられない。タイトルにある「人・地域・地球の健康を守り 縁をつなぐ 開かれたまち能勢」はどこに？人口を増やすことが大きな目標ならば、もっと特化した基本計画やタイトルでも良かったのでは？	地方創生は、出生率の低下によって引き起こされる人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的としています。地方創生の趣旨に基づき目標設定を行っていると考えています。 なお、基本構想を踏まえ、重点目標の達成に向けて横断的に取り組むべき内容を追記します。 ※別紙2に加えて、資料作成中のため当日配布します。	有	パブコメ
73	P6-8	重要業績評価指標（KPI）	創業実践塾受講者数 9 件（令和 2（2020））	9 人	有	事務局
74	P6-9	基本的方向	目標に対して記載内容が不十分であることから居場所や生きがいに関する内容を追加	・誰もが居場所と役割を持ち、住み慣れた地域で生きがいを持っていきいきと暮らす、健康寿命が延伸した活力ある生涯活躍社会の実現を目指します。	有	審議会
75	P6-9	基本的方向	目標に対して記載内容が不十分であることから土地利用に関する内容を追加	・里山地域の未来を考える中長期的な土地利用や暮らしを支える交通システムの形成、公共施設の有効活用に取り組み、持続可能なまちづくりを進めます。	有	審議会
76	P6-10	基本的な施策と重要業績評価指標（KPI）	※新規N075を踏まえ追加	施策：住まいや新生活の支援（再掲） KPI：空き家のマッチング件数（再掲）	有	事務局
77	P6-10	基本的な施策と重要業績評価指標（KPI）	※新規N075を踏まえ追加	施策： 活力ある暮らしを支える土地利用の推進（再掲） 地区計画活用によるモデル的地域づくり KPI： 提案基準を用いた開発許可・建築許可件数（再掲） 地区計画策定数 0件（実績値）→1 件（目標値）	有	事務局

78	P7-1	見直しの方向性	進行管理・評価の考え方を具体的に追加。	施策の進捗状況と社会情勢や住民の思いを照らし合わせ、必要に応じて見直しを行うなど柔軟に対応しながら、計画を推進します。 施策の進捗状況を管理したうえで町民や事業者、専門家等が参加する審議会において検証・評価を毎年実施し、次の取り組みにつなげ、情報発信していきます。 また、前半の5年が経ったときに本計画策定時の総合計画審議会委員から振り返りの評価を実施します。 こうした施策の効果の検証を踏まえて 5 年の計画期間が満了する令和 8 (2026) 年度に基本計画の見直しや、第 3 期総合戦略を策定します。	有	審議会
----	------	---------	---------------------	---	---	-----